

目録付古頭付

## 【凡例】

- 一、国立能楽堂蔵『目録付古頭付』の翻刻である。
- 一、翻刻にあたり、できる限り底本の体裁に従った。改ページは『で示した。
- 一、詞章は「」に入れた。
- 一、アシライの指示が始まる詞章に傍線を引き、アシライは詞章の後に記した。
- 一、適宜句読点を付した。
- 一、虫損は□、改行は／で示した。
- 一、漢字は新字体に改めた。
- 一、底本における墨筆・朱筆の別は特に明示していない。
- 一、本資料の翻刻・校訂は深澤希望・森田都紀・中司由起子・山中玲子・高桑いづみが、解題は高桑が担当した。

【翻刻】

- 一ゝたかさこ
- 一ゝ田むら
- 一ゝ松風
- 一ゝせかひ
- 一ゝあま
- 一ゝあたか
- 一ゝもみちかり
- 一ゝとをる
- 一ゝおひまつ
- 一ゝきよつね
- 一ゝゆや
- 一ゝ長郎
- 一ゝふし太こ
- 一ゝもり久
- 一ゝ源氏供養
- 一ゝはころも
- 一ゝたへま
- 一ゝやしま
- 一ゝてひか
- 一ゝかしわさき
- 一ゝ遊行やなき
- 一ゝあこき
- 一ゝ春か龍神
- 一ゝともなか
- 一ゝ道成寺
- 一石橋 しやきやうとも云
- 一ゝ西行桜

▲たかさこ 初大臣次第。「日も行末そ久しき」中の高ね。いかにも祝言ニふき納也。

一「はるくのミやこちを、く」高ね一ツ吹。又中のたかね一ツも吹なり。

一「いくかきぬらん跡すゑの」中のたかね返て一ツ吹。

一「高砂の浦に着にけりく」六ノ下。いかにもゆふくと吹へし。

一せりふ「相待」「くわしく尋はやと存候」ひしき。一セイ。ツ、ミのちをニツ三ツ程きさミいたさせ、一セイ笛也。

一「尾上のかねもひくくなり」呂ノカスリ一ツフクナリ。

一「なミハかすミのいそかくれ」タカね一ツ。

一「おとこそしほのミちひなれ」中ノタカね一ツ。又吹返すノチイロエテ。

- 一「こゝろヲともトすかむしろの、おもひ」本ノ呂。又のちイロエテ。
- 一「ところハたかさこのく」中（中）のカね一ツ。一「なるまていのちなからへて」たかね一ツ。
- 一「それも久しき名所かなく」六ノ下一返。
- 一「しる事あらハ申さ給へ」コテノイロへ。
- 一「相生のふうくと成物お」フウくとコテノフキヤウアリ。
- 一「しさいなミしつかにて」爰にて不吹候。
- 一「松こそ目出たかりけれ」中（中）ノカね一ツ。
- 一「すめるたミとて」タカね一ツ。ハねテ一ツ。』
- 一「猶々松の目出度いわれ御物語候へ」本ノね取。ヲルタカね□てフク也。
- 一「なんし花はしめてひらく」下ノ上ノゆり。うたイノゆりト合候ヤウニ吹アハスヘシ。
- 一「いきとしける物ことに。しきしまの」カシノ六ノ下一返。クセマイノウチマテフクヘシ。
- 一「ミな和歌ノすかたならずや」中ノタカね一ツ。
- 一「はんミンこれをしやうくわんす」タ、リウロ。
- 一「立よるかけの朝夕に」タカねノひしき一ツ。又はねて一ツ。
- 一「たとへなりけり。ときハ木の中にも名ハたかさこの」中ノタカね一ツフクトシ。たかね一ツ。又はねて一ツ。
- 一「けに名をえたる松かへの」タカねノひしき一ツ。
- 一「かしこきよとてつちも木も」はねて一ツ。
- 一「あまの小舟にうちのりて」たかねノひしき一ツ。又ハネテ一ツ。
- 一「沖ノ方に出にけりやく」大ゆり吹也。大夫かくやへ入間吹ヘシ。
- 一「この浦舟にほ、あけてく」タカねノひしきはねて一ツ。
- 一「はや住ノ江に着にけりく」ひしきにてテハフクナリ。
- 一「夜ノツ、ミの拍子をそろへ」呂ノのタレフク也。
- 一「しやうこんによつてこしをすれハ」タカねノハねテ一ツ。「千年のみとり」たかね一ツ。』
- 一「二月ノゆき。ころもにおツ」マイアリ。一「さてはんせいハおミ衣」タカねノひしき一ツ。』

一「千秋楽ハ民をなて」ハタカねノひしき。又小ねて。はねて一ツ。又吹返す。  
 一「さツ／＼のこゑそたのしむ／＼」ハ笛吹上也。ツ、ミの打上ノ拍子をうけてのひ／＼トヒツと／フクヘキ也。

▲一田村 初僧ノ次第。「九重の春に急かん」ハソトイロヘアリ。「春のそら／＼」ヲルタカね一ツ。

一「かすむそなたや音羽山」ハ中ノタカね一ツ。「清水寺に着にけり／＼」ハ六ノ下一返フク也。／せりフキ、合ひしき一セイ也。ムスフねトリヲフクヘシ。  
 一「じしゆこんけんの花さかり」中ノタカねノチソトイロヘて。

一「神の御庭の雪なれや」ハソトイロヘ。「霞もうつもれて／＼」ハ中ノタカね一ツ。  
 一「けに九重の春の空」ハヲルタカねきりテ一ツ。「時そとミゆるけしきかな／＼」ハ六ノ下一返。

一「ありしハ是坂ノ上の」ハソトイロヘ。「なに流たる清水の／＼」ハタカね一ツ。  
 一「国土万民おもらさしの」ハ下無方タカねヘ吹上コテヘヲトシテ一返。「我らかための観世音」ハタカね一ツ。又コテヘヲト／して一返。

一「地主権現の花の色も」ハソトイロヘ有。「しめちかはらのさしも草。我世の」ハヲルタカねキリテ一ツ。  
 一「ミとりもさすや青柳の」ハ下無ヨリタカねヘ吹上六ノ下ヘマハシテ一返。

一「春もおしなへて。のとけきかけハ有明の。天もはなにゑり」ハタカね一ツコテ一返。ロンキマテゆ／＼ト吹かけヘシ。又タリ不申候ハ、六ノ下吹ヘシ。  
 一「さかのうへの田村たうの軒もるや」ハタカね一ツコテヘヲトシテ一ツ。「内にいらせたまへけり」六ノ下一返。

一「此御経おとくしゆする／＼」ハひしきニテカケノねトリニタカね吹テゆりヲフクナリ。  
 一「観音おうこの結縁なる」ハ中ノタカねイカニもツヨク吹也。くり「則当寺の法力なり」ハゆりナリ。

一「いそきそうとにうツ立たり」ハ六ノ下一返。「駒もあしなみやいさむらん」ハ爰ニテ大夫ノしまい有／間不可吹。口伝。  
 一「さきかけんとかつ色ミせ」ハたかねノひしき一ツ。「す、かのみそきせしよ、まても」ハ六ノ下一返イカニもツヨクテ／イロ不可吹也。

一「とふよふせり」ハはたらきいかにもツヨク／ヲシカケテフクナリ。「かたきハほろひにけり」ハタカねノひしき一ツ。トメ。

▲一松風 初僧ノ次第。「人にたつねはやとおもひ候」ハコテ一ツ。  
 一「山もとの里までゆかはやとおもひ候」ハひしき一セイ。ヤマノハノねトリ／クライ序ノ序。

一「うき世にめくるはかなさよ」ハ呂ノカスリ。「なミこ、もとや須マの浦」ハタカね一ツ。  
 一「月さへぬらす袂かな」ハ中ノたかね一ツ／又イロヘテ。「月の夜しおをくまふ」ハ呂ノコテ。

- 一「おもひおほさぬ心かな」ハ呂ノコテ。「いざやくまふよハ」ハソトコテ。』
- 一「かけはつかしき我すかたハ」ハヲルタカねキリテ。
- 一「あまのすて草いたつらに。くちまさり行袂かなハ」ハ下ノタカね一ツ。コテヘヲトシテ一返。
- 一「秋なりけり。あら心すこの夜す」ハ呂ノカスリ。「帰るかたをなミハ」ハタカね吹ムスひ一ツ／ゆふハト吹ヘシ。
- 一「ふけ行月ハそさやかなれ」ハヲルタカねキリテ一ツ。「かけラクむこそ心あれハ」ハコテノイロヘ一返。
- 一「しをちかなや」ハ呂ノコテ一返。イカニモ／ウツクシクフクヘシ。「あるしに其由申候ハん」ハ立マハル度ニ口伝有／コテノイロヘ。
- 一「叶ふましき由申候へ」ハソトイ／ロヘル也。「おとまりあれと申候へ」ハ呂ノコテ。
- 一「又いつの世のおとつれを」ハソトイロヘ。「我あたとひてたひたまへ」ハコテノイロヘ。
- 一「露も思ひも乱つ」ハヲルタカね／キリテ。「かミのたすけも波の上」ハタカね一ツ。コテ一ツ。
- 一「わする、隙も有なんと」ハ下ノタカね一ツ。コテ一ツ。「かけてそたのむマうなし世に」ハヲルタカね／一ツ。
- 一「おもかけに立まさり。をきふし」ハタカねノフキムスひ一ツ。中ノタカね一ツ。又ツキテ。
- 一「ふししつむ事そかなしき」ハ能乱舞ともニ／不可吹候。但乱舞ニテハツ、ミ一ツ二ツ程こいやいにて呂のこて少吹へし／能にてハものき也。
- 一「またハこんとのことのはの。こなたハ忘れず」ハ呂ノコテ一ツ。爰ニテ心有ヘシ。』

## (欠葉あり)

## (熊野)

- 一「春もち、の花さかり」ハカンノカン一ツ。
- 一「わらハお酌に参候へし。いかにゆや。一さし御舞候へ。ふかきなさけを人やしる」ハマイ有。
- 一「ふるハなミたか桜花」ハタカね一ツ。「ちるおをしまぬ人やある」ハ短冊之段。フキヤウ口伝／吹上ニくテンアリ。
- 一「かりかねの。それハこしち。我ハ又」ハタカねノはねテ。トメ。

▲一初長郎ノなのり。しんニ吹也。「こかうの天も明行ハハ」ハタカねノひシキ一ツ。

一「しらみ渡れる川波や。かひのと」ハ六ノ下一返。イカニモ／ツヨク吹也。「待かひもなしや。はや帰れハ」ハタカね一ツ。

- 一「夜ふかくきたられハ我も又。爰に」ハタカネノひシキ一ツ。又コテ一ツ／テイロセス吹也。「思ふ心をみんなめとく」ハ中ノタカネ一ツ。
- 一「いさみをなして帰りけりく」ハ六ノ下一返。かたひしきニテはやツ、ミ有。其内大ゆり吹也。ノチ／はねテ一ツ。キウケン婦候ヲ見立ひシキ一七イ。かけノ音取ニゆりヲ吹也。
- 一「月もくまなきしんかうにく」ハタカネノひシキ一ツ。「おもふねかいもミツしほの」ハ中ノタカネ一ツ。
- 一「こまを早むるけしきあり」ハいかにも静なる早笛。ノチ吹そらす。／又出羽ニモ在。大夫二とうへシ。「くツをはせうよりく」タカネノハねテ一ツ。
- 一「とるへきやうこそなかりけれ」ハ早笛有。かるく／と／ひシカスカ、ルヘシ。
- 一「ふしきや川波立帰りく」ハ爰ニテはや笛ニも。又はたらきニも有。能々大夫二とうへシ。又ナニモ／ナケレハタカネノひシキ一ツヨク候ナリ。
- 一「立まちすかたハくわうせきと」ハタカネノはねテ。トめ。』
- ▲一ふし太こ 初大臣ノなのり。「ふしかゆかりの物来りて候ハ、かたミの物をつかハさはやと存候」ハひしき。女ノ／次第。
- 一「あかしかねたる夜もすから」ハコテノイロへ。「ねられぬま、におもひたツく」ハヲルタカネ一ツ。
- 一「松のひまより詠れハく」ハ中ノタカネ一ツ。「男山。ミヤこにはやく付にけりく」ハさうの六ノ下一返。
- 一「す、むなミタハせきあへす」ハソトコテ。「かたミそよしなき」ハソトイロへ。
- 一「かねてよりかく在へきと思ひひなはく」ハたかねノ吹むすひ一ツ。
- 一「なミたにてもとむへき物を今更に」ハ下ノタカネ一ツ。コテヘヲトシテ一ツ。「神ならぬ身をくうらミかこちなけくぞ哀成く」ハものき在。しんニフクヘシ。
- 一「秋の風方すさまじや」ハイロへ在。「うてやく／とせめツ、ミ」ハタカネ一ツ。
- 一「あらさてこりのなくねやな」ハ中ノたかね一ツ。「太こうちたるや」ハかく有。
- 一「太ここそうき人の」ハタカネヲサヘテ一ツ。「帰りける」。トめ。
- ▲一もり久 初もり久なのり。「春なきなこりかな」ハタカネ一ツ。
- 一「たきつこ、ろお人しらし」ハ中ノたかね一ツノチ／イロヘテフク也。「いつ帰るへき旅ならん」ハ呂ノコテ。
- 一「かわらよつものつし」ハコテイロへ。「行も帰るも別てハく」ハヲルタカネ一ツ。
- 一「せきもりも。今のわれをハよもとめし」ハ中ノタカネ一ツ。』
- 一「みのをハリ。あつた」ハコテノイロへ。「はやかまくらに付にけりく」ハ六ノ下一返。
- 一「あら在かたの御経や」ハ中ノタカネ一ツ。

- 一「御使度々にかさなれハ、めしにしたかい盛久ハ」タカカネノひシキ一ツ／又ハねテ一ツ。
- 一「其由を申候へ。畏て候」ハしかくアシライ無之候。
- 一「大悲の光。いつくふたうの所ならん」爰よりフき上ル／ゆりナリ。
- 一「の給ひて夢ハ即さめにけり」タカカネ一ツコテハヲトシテ一返。「心かきりなし」コテノイロへ。
- 一「御しんかんハかきりなし」ソトコテ。
- 一「もろこしかはらも此所に」舞有。吹やうクテン有之。
- 一「申つかまつり。退出しける」タカカネノひシキ。又はね返し／祝言トめナリ。
- ▲一けむしくやう 初僧ノ次第。いかにもうつくしき高音。又しんニフクヘシ。
- 一「花ノ宮を立出て」タカカネノ吹むすス一ツ。「白川おもて過行ハ」中ノタカカネ一ツ。
- 一「にほのうミ。けにおもしろきけしきかな」さウノ六ノ下返。
- 一「立こそ水のけふりなれ」呂ノコテ。「是迄あらハれ出たるなり」コテノイロへ。
- 一「いろに出るかむらさきの」下ノたかねニテイ／ロシテ。「夕日かけさしてそれとも」中ノタカカネツキテ又／コテハ／ヲトシテ。
- 一「トハおもへともあたし世の」タルタカカネ一ツ。「色在花も一時の」中ノタカカネツキテ一ツ。
- 一「頼すくなきこゝろかな」ひしき一セイサウノ／ねトリニゆりヲフクナリ。
- 一「ミへん姿ハはつかしや」中ノたかね一ツ。
- 一「なのらすとしろしめされよや」コテノいろへ。「石山寺のかねノこゑ」中ノたかねつき／て一ツ。
- 一「うつゝに返すよしもかな」地返してコテのいろへ有之。
- 一「むらさきにほふ袂かな」かけりノ舞ニも有。吹上呂ニテとむる又／イロヘニも有。大夫にとうヘシ。
- 一「くり」檀花一日唯おなし」下ノ吹上候ゆり。「幽霊成等正覚」呂ノコテ有。
- 一「相へつりくのことハリまぬ」をるたかねきりテ一ツ。「朝かほの光たのまれす」ソトいろへ。
- 一「つかさくらゐをあ」高音ノ吹むすひキリてつきて。
- 一「ゑこうもすてをわりぬ」コテノいろへ。「夢のうきはしの夢の間」たかねヲサヘテ。

- ▲一羽衣 初ひしき一セイ。むすふ音取なり。「浦人さハく波路かな」ハ中たかね一ツ。  
 一「立つれいさやかよはんハ」ハ呂ノコテ一ツ。「うき波たつと見てハ」ハ高音のひシキ一ツ。  
 一「吹ものときき朝風の」ハ中ノたかね一ツ。「つり人お、き小舟かなハ」ハ六ノ下一返。  
 一「行ゑしらすも」ハそといろへ。「ひんかのなれハ」ハ高音一ツ。  
 一「天路を聞ハなつかしや」ハ中ノ高音つきテ一ツ。  
 一「空に吹までなつかしやハ」ハ下ノ高音一ツこてへヲトシ／テ一返。  
 一「此時や初なるらん」ハものき有之口伝。「空ハかきりもなけれハとて」ハ高音一ツ。  
 一「なつれたり」ハゆり。「世につたへたる曲とかや」ハ僧ノ六下一返。  
 一「月もくもらぬ日の元や」ハそといろへ。「なつともつきぬいわをそと」ハ高音ノ吹むす／ひ一ツ。  
 一「白雲の袖そたへなる」ハコテノイロへそと。「舞の曲」ハマイ。  
 一「返も舞の袖」ハ天女ノはの舞。「あつまあそひのかすハ」ハ高音ノひしき／一ツ。  
 一「ふしの高ねかすかに成てあまつ」ハ高音ヲサヘテ。トめ。
- ▲一たゑま 初次第。「かへりきの路のせきこゑてハ」ハヲル高音一ツ。  
 一「夜昼わかぬこ、ちして」ハ中ノ高音。「たへまの寺に付にけりハ」ハさうの六ノ下一返／せりふ聞合ひシキ／一セイ。  
 一「す、しき道ハたのもしや」ハ中ノ高音一ツ／のちいろへて。「五色にいかてそミぬらん」ハ呂ノコテ。  
 一「何にはるハとおもふ乱」かつらノ呂一返。「迷ふ我かためなれや」コテノいろへ。  
 一「是そ一こゑのハ」ハヲル高音きりて。「よきやうの法ハよもあらし」ハ中ノ高音つきて。  
 □「明れハ出て暮まで」ハ下ノ高音一ツこてへ／ヲトシテ一返。「一心ふ乱に南無あみたふつ」ハ呂ノかすり。  
 一「ひさくらの」ハそといろへ有。「かけしはちすの糸桜」ハ中ノ高音一ツ。  
 一「くれないひもた、一こゑのさそはんや西吹秋ノ風ならんハ」ハ高音ノ吹むすひ一ツ。高音一ツコテへ□トシテ一返。  
 一「抑此たへまのまんだらと申ハ」ハカンのカン一ツ。いかにもうつくしく。「右大臣とよ成と申し、人」ハたかね一ツ。ハゆり  
 一「三味のちやうに入給ふ」ハ僧ノ六ノ下一返／うつくしく。「二人の老尼のこつせんと来り」ハ下ノ高音一ツコテへヲトシテ。  
 一「ちうしやうひめあきれつ、」ハそといろへ。

- 一「たつきもしらぬ山中に」たかね一ツ又高音ノ吹むすひ一ツ。「こたへさせ給ひしに」ヲルたかねきりて一ツ高音ノ一ツコテ一ツ。  
 一「正身のミた如来けに」高音一ツコテへノヲトシテ。「尼上のたけとハ申なり老の坂を」下ノたかね一返中入まで吹也。さしきにて不吹候。  
 一「いひもあへねはふしきやなく」たかねノひしき一ツ。「あらハれ給ふふしきさよ」ひしき出羽也。此出羽心ノ有ヘシ。吹上候事ふ可吹候。  
 一「ほつしんきやく来のほうミを」呂ノたれ有之。「せつしゆふ捨」大ゆり吹様有之。  
 一「十二糸も一こ糸そ有難や」ワキ能ニテは神舞ノ吹出しノつねハさうの舞也。「た、西方にむかへ行」たかねノひしき又ノはねて。」

(欠葉あり)

- ▲一せつしやう石 初僧次第。「うき世のたひに出よ」そといろへ有。  
 一「身ハいつくともさためなき」たかねノひしき一ツ。「心のおくをしら川」中ノたかね一ツ。  
 一「なすの、原に付にけり」六ノ下一返。「もとめたまへる命かな」コテノいろへ在。  
 一「なすの、原に立石の」たかね一ツ。「又立帰る草の原」中ノたかねつきて一ツ。  
 一「ものすこき秋の夕かな」呂ノコテ。くり「御物語候へ」かんノカン一ツ。  
 一「うへ人たりし身なりしに」ゆり。「たまもの前とそめされける」さうの六ノ下一返。  
 一「ひとへに月のことなり」そといろへ。「あへのやすなりうらなつて」たかねノひしき一ツ。  
 一「かたむけんと化生して」高音一ツ。をるたかね一ツ。「きへし跡ハこれなり」そといろへ。  
 一「立帰り夜になりて」たかね一ツ。「此夜ハあかしたもし火の」たかねノひしき。  
 一「石にかくれ失にけりや」コテノあしらい有。「御たすけあと給候」。  
 一「わき」木石心なし」大ゆり。「なさんせつしゆせよ」ひしかす。さうの出羽吹也。  
 一「あらわれ出たるおそろしや」大ゆり少吹也。「約束かたき石と成て」はねて。トめ。

▲一夕かは 初僧ノなりの。「花むらさきの野お分て」そといろへ。

- 一「ふしおかミ」ヲルたかね一ツ。「月やあらぬとかこちける」中ノたかね一ツ。』  
 一「尋とひてそくらしける」六ノ下一返。「しはらくやすらい尋はやとおもひ候」下ノたかね一返。口伝。

- 一「かけやたゑなん」へコテノいろへ。「さハリとなれば今も猶」へ呂ノコテ。
- 一「かよふ心のうき空をく」へヲルたかね。きりて一ツ。「むなしきそらにあをくなりく」へコテノ吹上一返。
- 一「かハらのいんと御覽せよ」へコテノいろへ。「たれかハかりニも語伝む」へ下無てう方吹上ゆりきりて吹也。
- 一「たよりにたてし御車なり」へ呂ノコテ一返。「はかなかりけるひおむしの」へコテノいろへ。
- 一「風にまたたくもし火の」へヲルたかね。きりて一ツ。
- 一「夢にきたりて申とてあり」へ下ノたかね。コテへヲトシテ一ツ。「いさゝらハ夜もすからく」へたかねノ吹むす／ひ一ツ。
- 一「とふら法ぞ誠なるく」へひしき僧ノ音取ニゆり吹也。「あと能とむらひ給へとよ」へ中ノたかね一ツ。
- 一「さも物すこき思ひたまハし」へそといろへ。「しるへにて」へたかね一ツ。
- 一「ちきりたゑすなく」へ中ノ吹出、序ノ舞。「法に出るそとあけ暮のそら」へたかねヲサヘテ又はねて／とめ。
- ▲一つねまさ 初僧ノなのり。「在かたさよ」へそといろへ。
- 一「彼せいさんといふひわをく」へをる高音一ツ。
- 一「こゑもふつしをなしそへて」へ中ノ高音一ツ。「きせんの道もあまねしやく」へ下ノ高音一返吹かけて。
- へシテ出るこゝろかけ口伝有之。』